

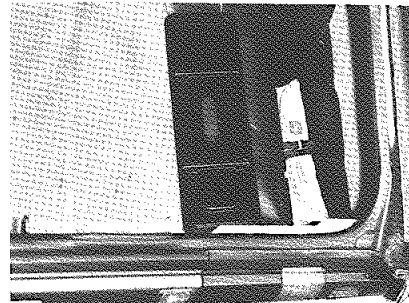
# 車の簡単な手入れと処置

## 工具とジャッキ

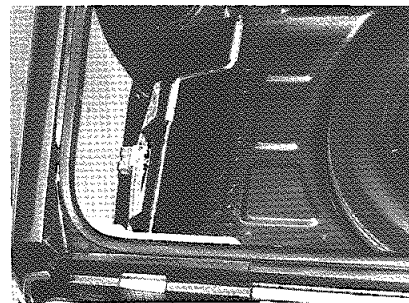
### 格納位置

セダン車

<工具>



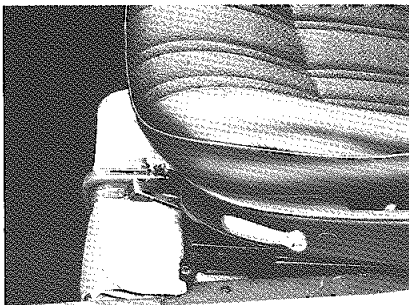
<ジャッキ>



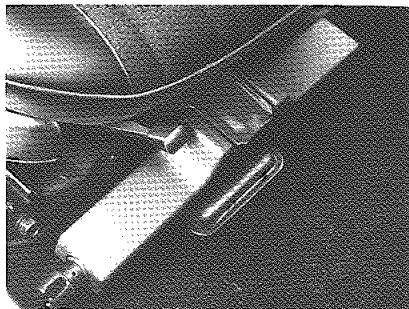
ジャッキとハンドルは、トランク左側のカバーの下に格納されています。

ワゴン車

<工具>

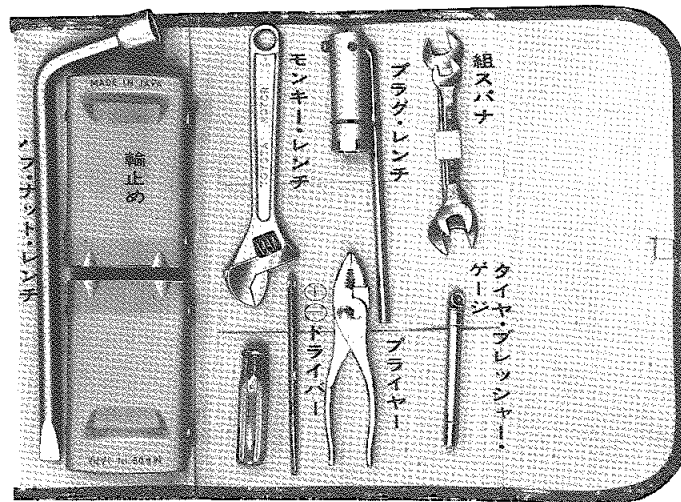


<ジャッキ>



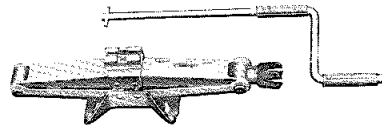
ジャッキとハンドルは運転手席、工具は助手席側の足元に格納されています。

<工具>

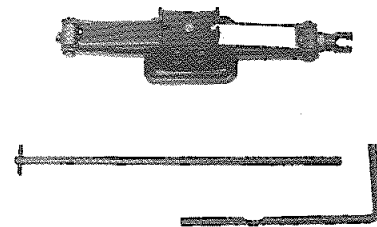


<ジャッキ>

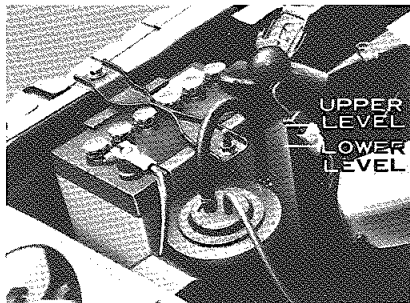
セダン車



ワゴン車



## バッテリー液の補給



バッテリーの中の電解液は使っているうちに蒸発して減ります。

バッテリー・ケースは半透明になっていますので液量は外から点検できます。液面がUPPER LEVELとLOWER LEVELの間にあればよく、少ないときは蒸留水を補給してください。

## 冷却水の交換

必ずロング・ライフ・クーラントをご使用ください。

キャッスル・ロング・ライフ・クーラントは、冷却水と不凍液とを兼ねています。四季を通じて使用でき、通常は2年で交換してください。

交換する場合は次の要領で実施してください。

### 冷却水の交換

- 1 エンジン・ドレーン・コック, ラジエーター・ドレーン・コックをはずし, 冷却水を全部出します。
- 2 水道の水でラジエーター内を洗浄しエンジン・ドレーン・コックとラジエーター・ドレーン・コックを取り付けます。
- 3 ロング・ライフ・クーラントの注入量は, 下記の表を参照してください。

凍結防止温度	-15℃まで	-38℃まで
ロング・ライフ・クーラントの濃度	30%	50%
参考 冷却水量	18R-U	8.0ℓ
	M-U M-EU	11.0ℓ

#### ★注意

新車時および冷却水交換時, エンジン内に空気が残りしばらくは冷却水の減少が見られますが異常ではありません。

## 冷却水の補給

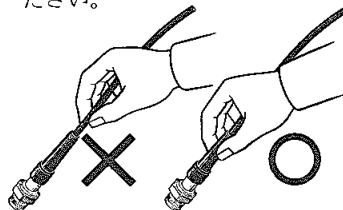
冷却水を補給する場合はロング・ライフ・クーラントの30%液または50%液を補給してください。

#### ★注意

補給はリザーブ・タンクに行なってください。LOWとFULLのレベル内にあればよく, FULL以上はいれないでください。

## プラグ・コードおよび、スパーク・プラグの取り扱い

- 1 プラグ・コードを取りはずす場合は, キャップ部を持って取りはずしてください。



- 2 スパーク・プラグを交換する場合は, 指定のものをご使用ください。

(47頁参照)

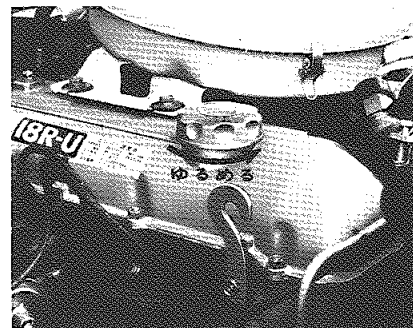
#### ★注意

コードの中間を持って引っぱると断線のおそれがあります。

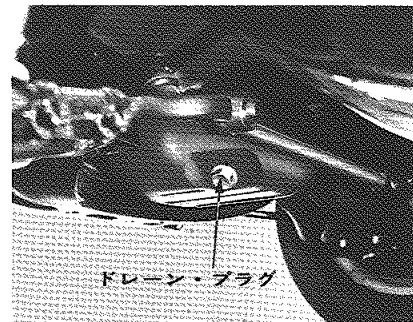
## エンジン・オイルの交換

新車時第1回目の交換は3カ月または, 5,000km時, 2回目からは6カ月または, 5,000kmごとに交換してください。

- 1 フィラー・キャップを取るか, エンジン・オイル・レベル・ゲージを抜きます。



- 2 エンジンのドレーン・プラグをはずしてオイルを出します。



- 3 エンジンのドレーン・プラグを取り付け, オイルを注入します。

オイルはトヨタ純正キャッスル製品をご使用ください。

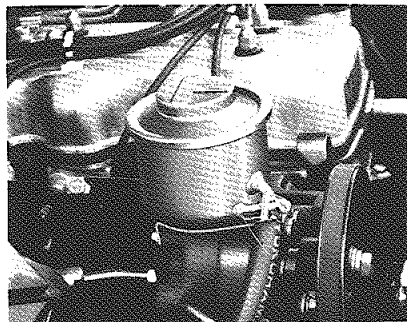
キャッスル・モーター・オイルSAE30(SD)  
キャッスル・モーター・オイル・スペシャル  
20W-40(SD)

API基準, SC, SD相当シングル・グレード・オイルまたは, 20W-40

# パワー・ステアリング・フルードの点検

LG車標準

LA, L, LX, ワゴンL車オプション



パワー・ステアリングのオイル量を5,000km走行程度ごとにお調べください。

オイル・タンクはポンプの上側になっています。キャップを左にまわして取り、キャップ・ゲージの目盛内にあるか確認します。

パワー・ステアリングのオイルには、必ずキャッスル・パワー・ステアリング・フルードをお使いください。

# パンクの処置

## ■パンクの処置

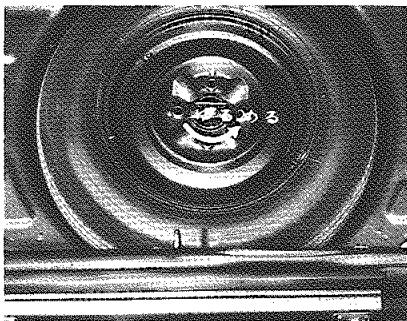
車を道路の左はしによせて

1 工具、ジャッキ、スペア・タイヤをとり出します。

2

### セダン車

スペア・タイヤは蝶ネジを左にまわしてとり出します。

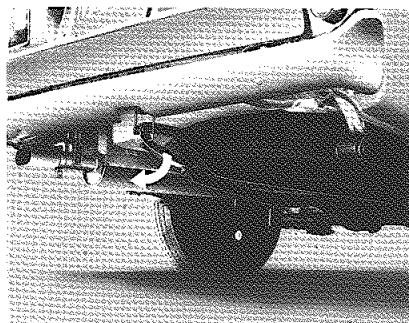


### ワゴン車

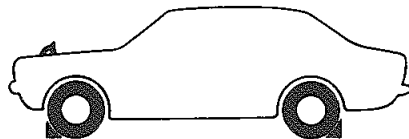
ハンドルを起こしてフックからレバーをはずします。

スペア・タイヤ・キャリアをそっとおろし、スペア・タイヤを取り出します。

盗難防止のため、錠前などで施錠することもできます。



3 輪止めをします。



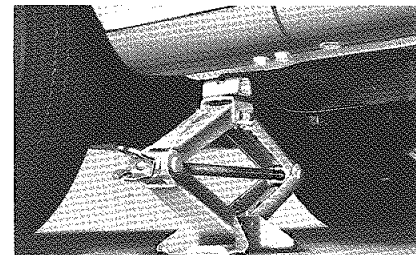
左側パンク時……右側前後のタイヤ  
右側パンク時……左側前後のタイヤ

4 ジャッキがはずれたときの危険防止のため、スペア・タイヤをパンクしたタイヤのボデーの下に置きます。

5 ホイール・キャップをドライバーではずします。直接ホイール・キャップに指をかけて引くことは危険です。

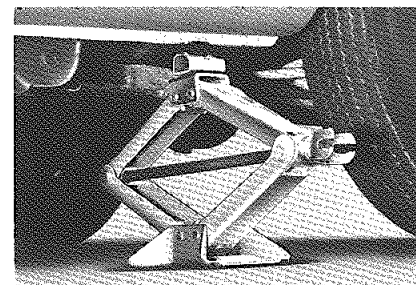
6 ジャッキをセットします。交換する車輪に近いサイド・レールの切りかき部にジャッキの受けをはめます。

## フロント側

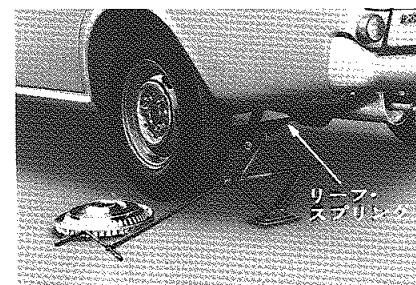


## リア側

### セダン車



### ワゴン車



リーフ・スプリングにジャッキの受けをセットします。

## ★注意

ジャッキは地面の平らで安定できる所にセットしてください。

7 ハブ・ナットをハブ・ナット・レンチでゆるめめす。ナットは手でまわる位までゆるめておきます。

8 タイヤと地面とが少しあくまでジャッキ・アップします。

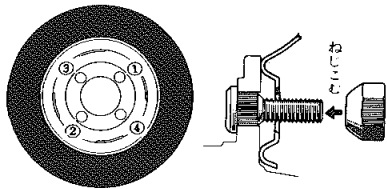
★注意

ジャッキ・アップしてからは車の下にもぐらないようにしてください。

万一、ジャッキがはずれると大変危険です。

9 ナットをはずしタイヤを取りかえます。

10 ナットのテーパ部がホイール穴のシート部に軽くあたり、タイヤがガタつかない程度までナットを締めます。



11 ジャッキをはずしナットは図の数字の順序で2～3度にわたり車両搭載のハブ・ナット・レンチを使用して、手でいっぱい締め付けます。

★注意

レンチを足で踏んだりパイプ等を使用して、必要以上に締め付けしないでください。

12 タイヤの空気口にキャップの穴を合わせホイール・キャップを取り付けます。

13 工具ジャッキを片づけパンクしたタイヤは、すぐ修理しておきましょう。

14 パンクしたタイヤを積みましよう。スベア・タイヤの空気圧は規定空気圧より少し高めにしておきましょう。

★注意

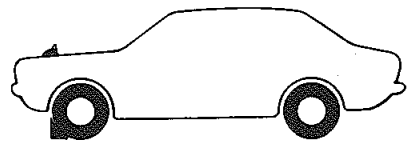
チューブレス・タイヤのパンク修理は、チューブ入りタイヤと修理方法がちがいますので確実に修理のできる工場で行なってください。

## タイヤ・チェーン

タイヤ・チェーンは後2輪に取り付けます。

＜取り付け方＞

1 前輪に輪止めをし、後輪をジャッキアップします。



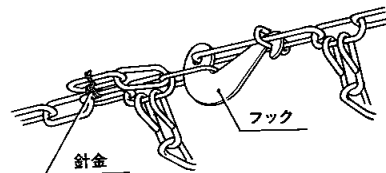
5 ジャッキをおろし輪止めをはずします。

＜取りはずし方＞

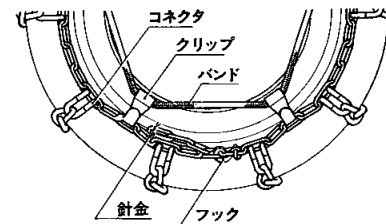
1 チェーン・バンドをはずし、針金を取りフックは、内側から先にはずします。

2 車を少し動かし、チェーンを取り出します。

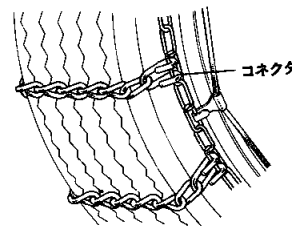
3 チェーンの両端をいっぱい引っぱって内側から連結します。余ったチェーンは(ボデーに当るのを防止するために)図のように針金で結びます。



4 チェーン・バンドはクリップの爪を外向きにし、チェーンをひっぱります。



2 コネクタの折り曲げを外にしてタイヤを回しながらチェーンをかぶせませす。



★注意

1. タイヤ・チェーンは、車のタイヤ・サイズに合ったものを使用してください。

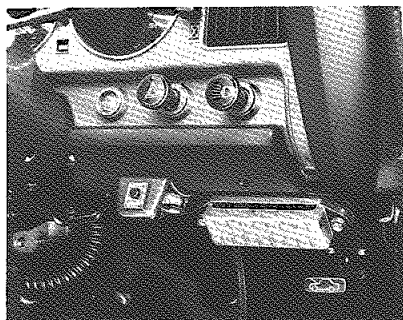
2. タイヤ・チェーンを装着して悪路を走行する場合は、次の速度で走行してください。

雪路、凍結路 — 30km/h以下

普通路 — 50km/h以下

# ヒューズ、ランプの交換

## 〈故障の調べ方〉



運転席右足もとのヒューズ・ボックスのふたにヒューズ容量と主回路名が記入してあります。そのヒューズの受けもっている配線全部が作動しないときはヒューズ切れと考えられます。

1つだけ作動しないときは、ランプ切れかまたは配線に不具合があります。

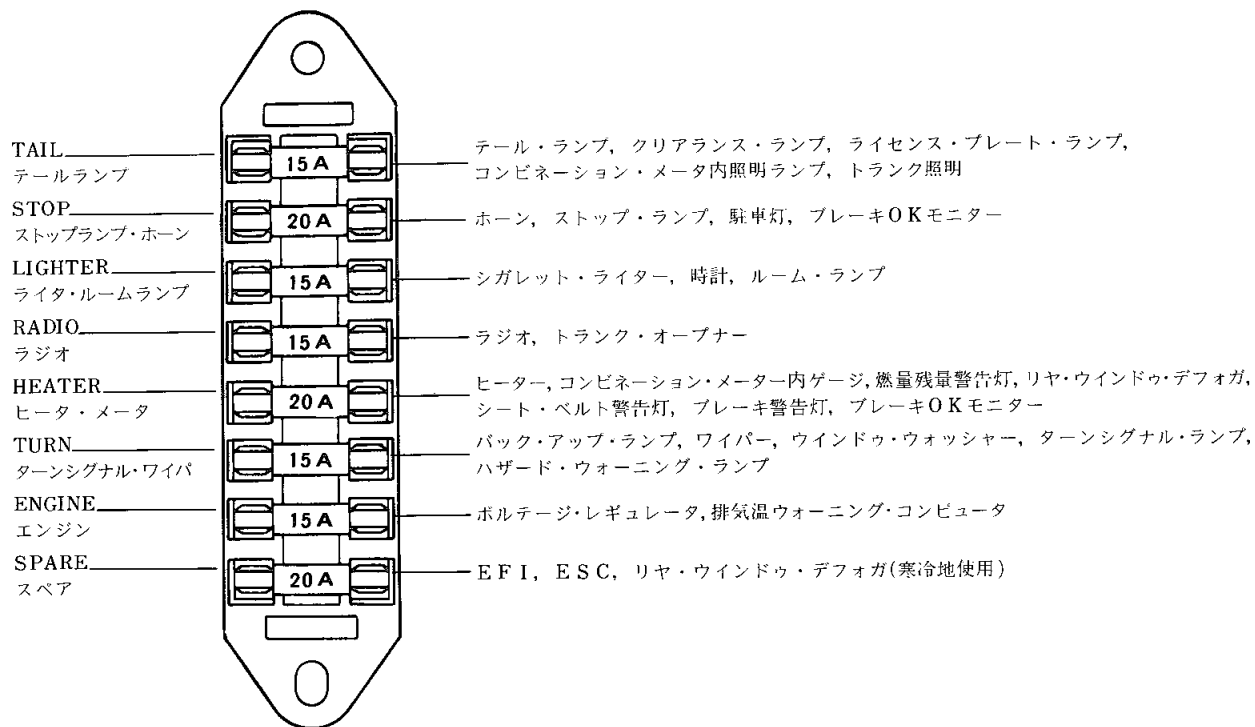
## 〈ヒューズの交換〉

1. ヒューズ・ボックスのふたを取ります。
2. ヒューズをはずします。
3. 切れたものと同容量のヒューズと交換します。

何度もヒューズが切れる場合は、針金、銀紙等を使用しないで、サービス工場で点検を受けてください。

## ★注意

ヒューズの代わりに針金、銀紙等は絶対に使用しないでください。

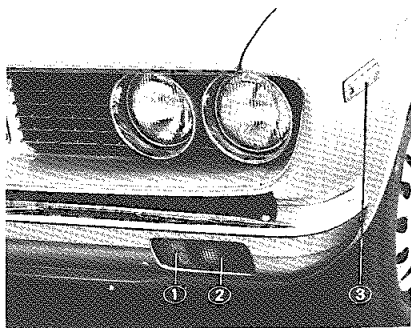


※ 1. 不具合のある個所は点灯または作動しません。

2. スペア・ヒューズはケース・カバーに（スペア・ヒューズ15A、20Aが各1本）があります。

## ■ランプの交換

### フロント側



#### ①クリアランス・ランプ&

フロント・パーキング・ランプ

7/3.4W

#### ②フロント・ターン・シグナル・ランプ &ハザード・ウォーニング・ランプ

23W

#### ③サイド・ターン・シグナル・ランプ

5W

バルブ交換は、レンズ表面のネジをはずしてレンズをとり、バルブをいっぱい押しこんで左に回してははずします。

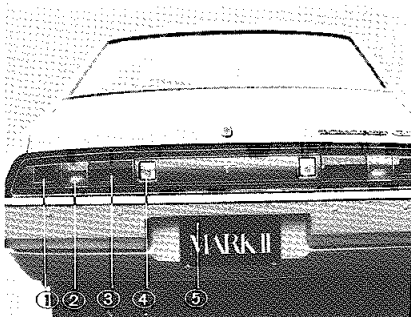
バルブをはめるときは、バルブをいっぱい押し込んで右に回してください。

ダブル・フィラメント・バルブはボッチの位置が左右ちがいますのでご注意ください。

#### ★注意

ソケットおよび接着部の錆・汚れをとってください。

### リヤ側



#### ①パーキング・ランプ

3.4W

#### ②ターン・シグナル・ランプ

23W

#### ③ストップ&テール・ランプ

23/8W

#### ④バック・アップ・ランプ

23W

バルブの交換は、トランク・リッドを開いて、トランク内のランプ・カバーのネジを左にまわしてははずします。

ランプ・ソケットは左へまわして取り出しバルブをいっぱい押し込んで左へまわしてははずします。はめるときは切り欠きをあわせて右へまわします。パーキング・ランプは引っ振るとははずれます。

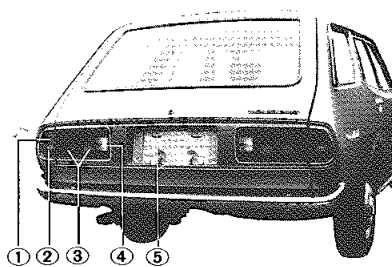
#### ⑤ライセンス・プレート・ランプ

7.5W

ランプ・カバーのネジをはずして、カバーを取り、バルブをいっぱい押しこんで左にまわしてははずします。

#### ワゴン車

### リヤ側



#### ①ハザード&ターン・シグナル

23W

#### ②パーキング・ランプ

3.4W

#### ③ストップ&テール・ランプ

23/8W

#### ④バック・アップ・ランプ

23W

レンズ表面のネジをはずしてランプ・ソケットを左にまわしてははずします。

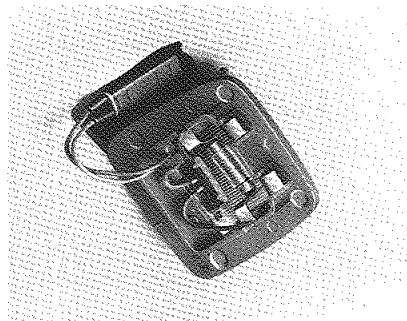
はめるときは、切り欠きをあわせて右へまわします。パーキング・ランプは引っ振るとははずれます。

#### ⑤ライセンス・プレート・ランプ

7.5W

カバーのネジ2個所をはずしてレンズを取り、バルブをいっぱい押し込んで左にまわしてははずします。

## ルーム・ランプ フロント

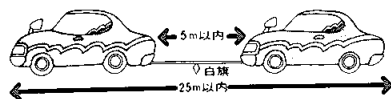


ルーム・ランプ **10W**  
バルブの交換は、スイッチをOFFにして、ネジをはずし、ランプを引っぱり出してウラ側からバルブを取りはずします。  
リヤ

ルーム・ランプ・ボデーを⊖ドライバー  
ではずして電球を交換してください。

## けん引について

〈けん引のしかた〉



けん引車は急発進、急停車をしないようにし、けん引される車はけん引車のストップ・ランプに注意し、常にローブをたまるませないように気をつけましょう。

### 注意事項

- けん引中でもキーはLOCKの位置まで回さないでください。  
ハンドルが切れなくなり危険です。
- エンジンが停止していると、いつもよりブレーキの効きが悪くなります。  
できる限り、エンジンを始動してけん引してください。

## オートマチック・トランスミッション車の場合

### MX車

- Ⓝにして30km/h以下で行なってください。
- オートマチック・トランスミッション内部に故障があり、動かすと不具合があると思われるときは、後の車輪をつり上げるか、プロペラ・シャフトをはずしてからけん引してください。

### RX車

後の車輪をつり上げるか、プロペラ・シャフトをはずしてからけん引してください。

## 外装の手入れ

車を美しく保つには、日頃のお肌(塗装)の手入れが必要です。

ボデーのほこりは柔らかい布か毛ばたきでとりましょう。

塗装面が汚れたときは、なるべく早く洗車をし、汚れのひどいときはカーシャンプーを使用しましょう。

塩分や凍結防止剤が付着したときは早く洗車しましょう。ワックスがけはボデーにツヤのなくなる前に適時行なってください。

### 〈洗車方法〉

- 1 下まわりを洗います。
- 2 十分水をかけながらスポンジかセーム皮で汚れを洗い落します。
- 3 汚れのひどいときは、ボデー温度が下ってからカーシャンプーを使用して洗います。
- 4 塗面に、はん点が残らないよう十分水分をふきとります。

### 〈ワックスがけ〉

- 1 1カ月に1度または水のはじきが悪くなったときに行なってください。
- 2 ワックスがけはボデーの温度が体温以下のとき行なってください。
- 3 使用法はワックスの容器に記載されていますから、よく読んでお使いください。
- 4 ワックスは、トヨタ純正品で下記の名称のものをお使いください。

オートワックス・デラックス

オートワックス・カスタム

オートワックス・スペシャル

スピーディ・オートワックス・クリーン

スピーディ・ショット

#### ● 注意 ●

1. ワックスの中にコンパウンド（細かい砂）の入っていないものをご使用ください。  
（コンパウンドの入っているワックスを使用すると塗装の表面に細かい傷が残ります。）
2. エンジン・ルーム内の電気系統に水をかけないように注意してください。  
エンジン始動不良の原因となります。